

# 郡山市放課後児童クラブ 安全管理マニュアル

郡山市こども部こども政策課

## 目 次

I	事故や災害への備え	1
1	日常の取組み	1
2	非常時の連絡	1
II	通所、帰宅時の児童の安全確保	3
1	保護者への周知・徹底	3
2	日常の取組	3
3	緊急時の対応	4
4	通所・帰宅時の安全確保フローチャート	4
III	外部からの侵入者への対応	5
1	不審者とは	5
2	不審者の侵入防止	5
3	不審者が侵入したときの対応	5
4	不審者侵入対応チャート	6
5	安全対策チェックリスト	7
IV	緊急災害時の対応	8
1	日常の取組	8
2	クラブを中止する場合	8
	郡山市の防災情報について	8
	災害用伝言ダイヤル	9
3	地震発生時の対応	11
	地震発生時の支援員の安全指導例	17
4	火災発生時の対応	19
5	水害・土砂災害発生時の対応	20
6	非常災害への備え「チェックリスト」	24
7	気象警報発令時（大雨・洪水・暴風・暴風雪・大雪）の対応	25
	放課後児童クラブ支援員緊急連絡網	26
8	インフルエンザへの対応	27
9	新型コロナウイルス感染症への対策	27
V	けが、病気への対応	28
1	安全確保	28
2	病気の児童が通所した時の対応	28
3	事故が起きた時の対応	28
4	具体的な対応	29
	（1）救急処置フローチャート・緊急処置のしかた	29
	（2）医療機関・救急車との連携について	30
	（3）大出血の手当	30

(4) 頭部	．．．．．30
(5) 耳・鼻・眼・歯の傷害	．．．．．32
(6) 腹部	．．．．．33
(7) 骨・関節・筋肉の傷害	．．．．．34
(8) やけど	．．．．．36
(9) 異物の除去	．．．．．36
(10) 熱中症	．．．．．37
(11) 感染性胃腸炎（ノロウイルス）	．．．．．37
(12) 光化学スモッグ	．．．．．38
(13) 微小粒子状物質（PM2.5）	．．．．．39
(14) 常備薬	．．．．．40
VI 避難訓練の実施	．．．．．41
1 不審者が侵入したとき	．．．．．41
2 地震・火災が発生したとき	．．．．．43
3 水害・土砂災害が発生したとき	．．．．．47

# I 事故や災害への備え

## 1 日常の取組み

### (1) 緊急連絡網の作成

最寄りの医療機関の休診時間・休診日や救急指定病院等の情報を把握し、日頃から目につきやすい所に「緊急連絡網」を掲示しておく。

### (2) 保護者の緊急連絡先の把握

保護者の緊急連絡先を把握しておく。(保護者会緊急連絡網の作成)

### (3) 安全の確認

登所・帰宅経路、クラブ周辺の安全を点検する。安全マップを作成する。

外遊び中においても、放課後児童支援員又は補助員(以下「支援員」という。)が児童の所在を把握し、安全が確認できるようにしておく。

### (4) 救急薬品等の備え

応急処置のできる程度の医薬品を用意しておき、活動前には、点検をしておく。

### (5) 災害への備え

各クラブにおいて避難訓練を年2回以上実施する。

整理棚やロッカーなどは倒れないように、転倒防止対策をしておく。

児童の避難場所については、事前に学校、保護者の間で決めておく。

## 2 非常時の連絡

### (1) 人命に関わる状況の場合

救急への通報を優先する。その後、警察及び関係各所への連絡を行う。

### (2) 不審者発見の場合

必要に応じて、学校、所管課等関係各所へ連絡する。

危険が感じられる場合は、警察へ通報する。

### (3) 犯罪発生の場合

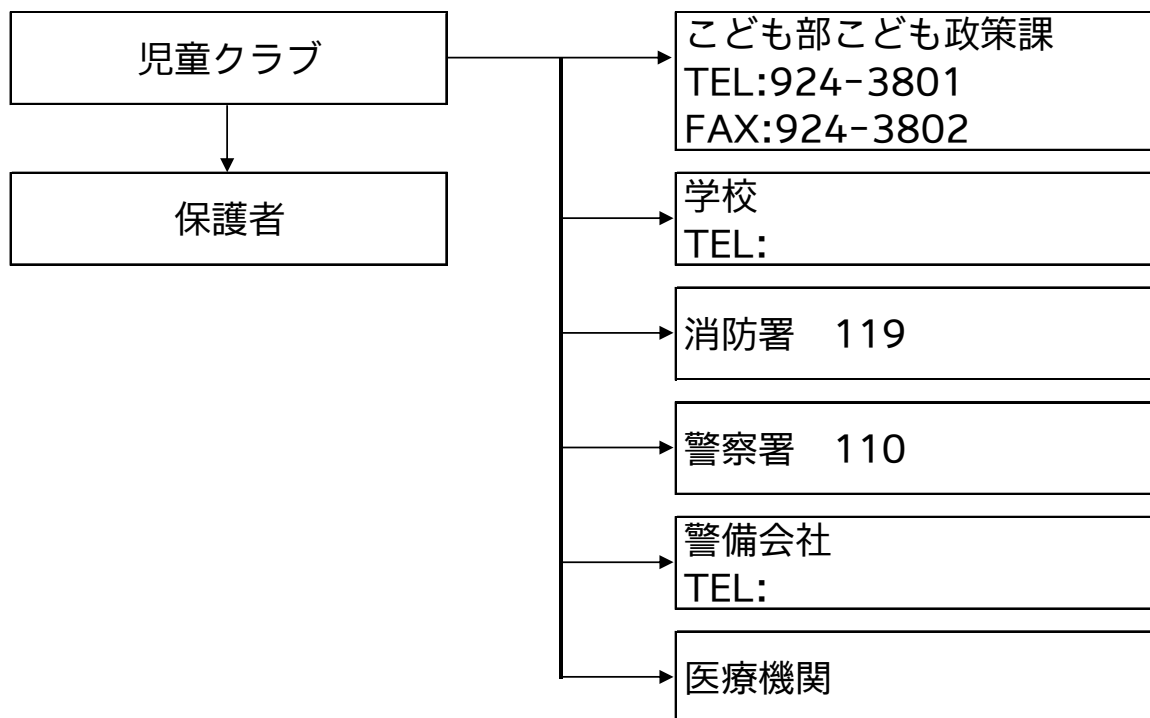
児童の安全確保を優先し、警察に通報する。

その後、学校、こども政策課等関係各所へ連絡する。

#### **連絡方法は5W1Hの原則に沿って行う!**

What	.....	何が起きているのか
Where	.....	どこで起きているのか
Who	.....	誰に起きているのか、自分は誰なのか
When	.....	いつ起こったのか
Why	.....	なぜ発生したのか
How	.....	どのようにして起こったのか

## 郡山市放課後児童クラブ緊急連絡網



医療機関名	診療科	電話番号
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	
	内科・外科・整形外科・眼科・耳鼻咽喉科・ 歯科・その他（ ）	

その他連絡先	電話番号
タクシー会社：	
NTT災害用伝言ダイヤル	171

## Ⅱ 通所、帰宅時の児童の安全確保

### 1 保護者への周知・徹底

クラブへの通所、帰宅時の事故については、基本的には「保護者の責任である」ことを十分に説明し、安全な帰宅方法について保護者と話し合いをした上で、次のことをお願いしておく。

また、クラブからの帰宅の際には、安全面から一人で帰るのではなく、必ず保護者のお迎えにより帰宅すること。

- (1) 保護者が児童と一緒に通所経路の安全確認を行うこと。また、定期的に行うよう呼びかけること。
- (2) 危険を感じたらすぐにその場から逃げ、近くの大人や学校、民家、商店などに助けを求めるよう児童・保護者に呼びかけること。
- (3) 児童がとるべき安全対策について家族でも繰り返し指導し、児童自身がそのことを身につけられるように保護者に呼びかけること。
- (4) クラブを欠席する場合は、必ず事前に連絡をすること。

### 2 日常の取組

保護者に対して安全確保を依頼する一方で、クラブでは、日頃から次のことに取り組んでおくこと。

#### (1) 通所・帰宅経路等に関する情報入手

- ア 学校や地域などから近辺の危険箇所や経路についての情報を入手すること。
- イ 入手した情報から安全マップを作成し、児童に安全指導をすること。
- ウ 児童の下校時刻を常に把握できるように学校と連絡を取りあうこと。
- エ 特別な事情で下校が遅れるときなどは、学校から連絡があるようお願いすること。

#### (2) 予定時刻に登所しない場合の対応方法

学校に連絡し状況を確認した上で、必要があれば保護者等に速やかに連絡・確認するなど、予め支援員の間で対応方法を決めておく。

また、予定がない児童に登所した場合についても、速やかに保護者等へ連絡・確認するなど、予め支援員の間で対応方法を決めておく。

#### (3) 児童への指導

- ア 知らない人の声かけや誘いに乗らないこと。
- イ 不審者に遭遇したら
  - ・ 大声を出して（防犯ブザーなど）近くの大人に伝える。
  - ・ 「子ども110番の家」が近くにある場合はそちらに逃げる。
  - ・ 近くに誰もいなかったら、不審者から遠ざかる方向に逃げる。
  - ・ 安全な場所まで逃げたら近くの大人に事情を話し、協力を求める。

- ・余裕があれば、不審者の特徴（性別、服装、車の色など）を記憶し、記録しておく。

#### （４）関係機関との連携強化

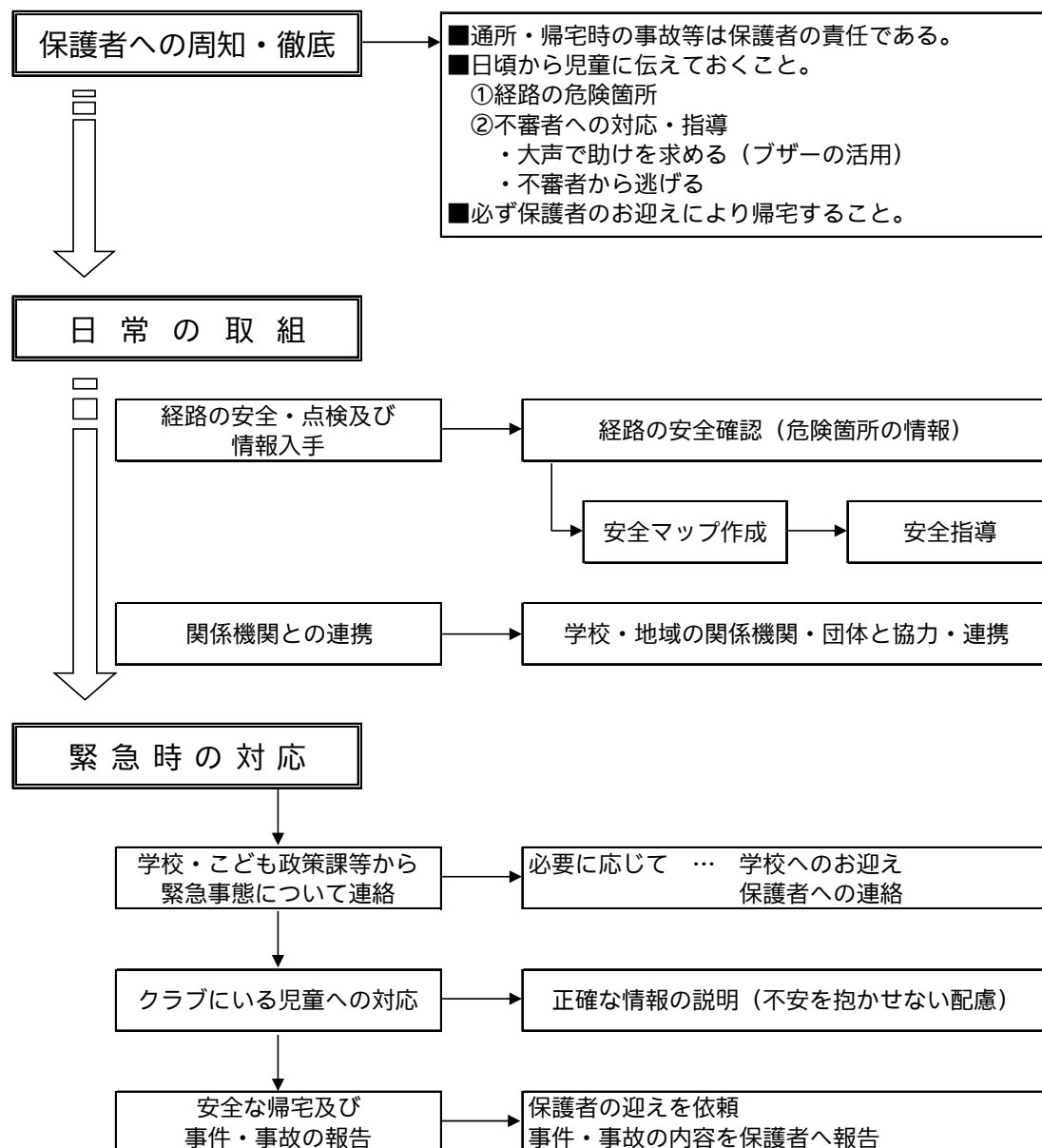
登所・帰宅時の安全確保に万全を期すため、日頃から学校、地域の関係機関・団体などと連携の強化を図る。

### 3 緊急時の対応

- （１）学校や担当課等から緊急事態発生（事件・事故など）の連絡があった場合には、児童の通所や帰宅の経路を確認し、必要に応じて支援員がお迎え（登所前の場合）又は保護者にお迎えの連絡（帰宅前）を行う。

- （２）児童が外で活動している場合には、支援員が児童を集めてクラブに戻り、緊急事態が解除されるまでは、クラブ内に児童を待機させておく。

### 4 通所・帰宅時の児童の安全確保フローチャート



## Ⅲ 外部からの侵入者への対応

### 1 不審者とは

ここで言う不審者とは、正当な理由がなくクラブ内やクラブ敷地に入り込む、また、入り込もうとしている人を指す。

### 2 不審者の侵入防止

#### (1) 日常の取組

##### ア 日常の点検

(ア) 来所児童の把握、活動場所を確認する。

(イ) 活動場所の施錠・開錠箇所を確認する。

(ウ) 防犯用具の整備と使用訓練をする。(非常警報ブザー、電話連絡など)

##### イ 不審者が侵入した場合を想定した児童への指導

児童に対し、不審者が侵入した場合の対処方法について、指導や注意を喚起する。

##### ウ 隣近所等へのあいさつや声かけの励行

#### (2) クラブ内外の巡回

活動中は支援員を適切に配置するとともに巡回を徹底し、不審者等の早期発見、児童のけが防止に努める。(特に、目の届かない場所での遊びは制限する)

#### (3) 学校、保護者、地域の関係機関との連携

ア 児童の安全確保のために巡回、情報の提供など学校、保護者、地域の関係機関と連携を図り、日常的に意見・情報交換をしておく。

イ 保護者への連絡や帰宅方法について、「保護者会」「クラブだより」等を通じて協力依頼や周知徹底を図る。

ウ 支援員間で緊急時の連絡先(警察・消防・病院)の確認と連絡の方法の周知徹底を図る。

エ 地域の不審者情報の入手経路と入手後の対応について、学校等と調整を図っておく。

### 3 不審者が侵入したときの対応

#### (1) 不審者を発見した場合の対応方法

ア 電子ホイッスル・警報機器(非常通報ボタン)などにより周囲に危険を知らせる。

イ 児童を危険が少ないと思われる方向へ避難させる。

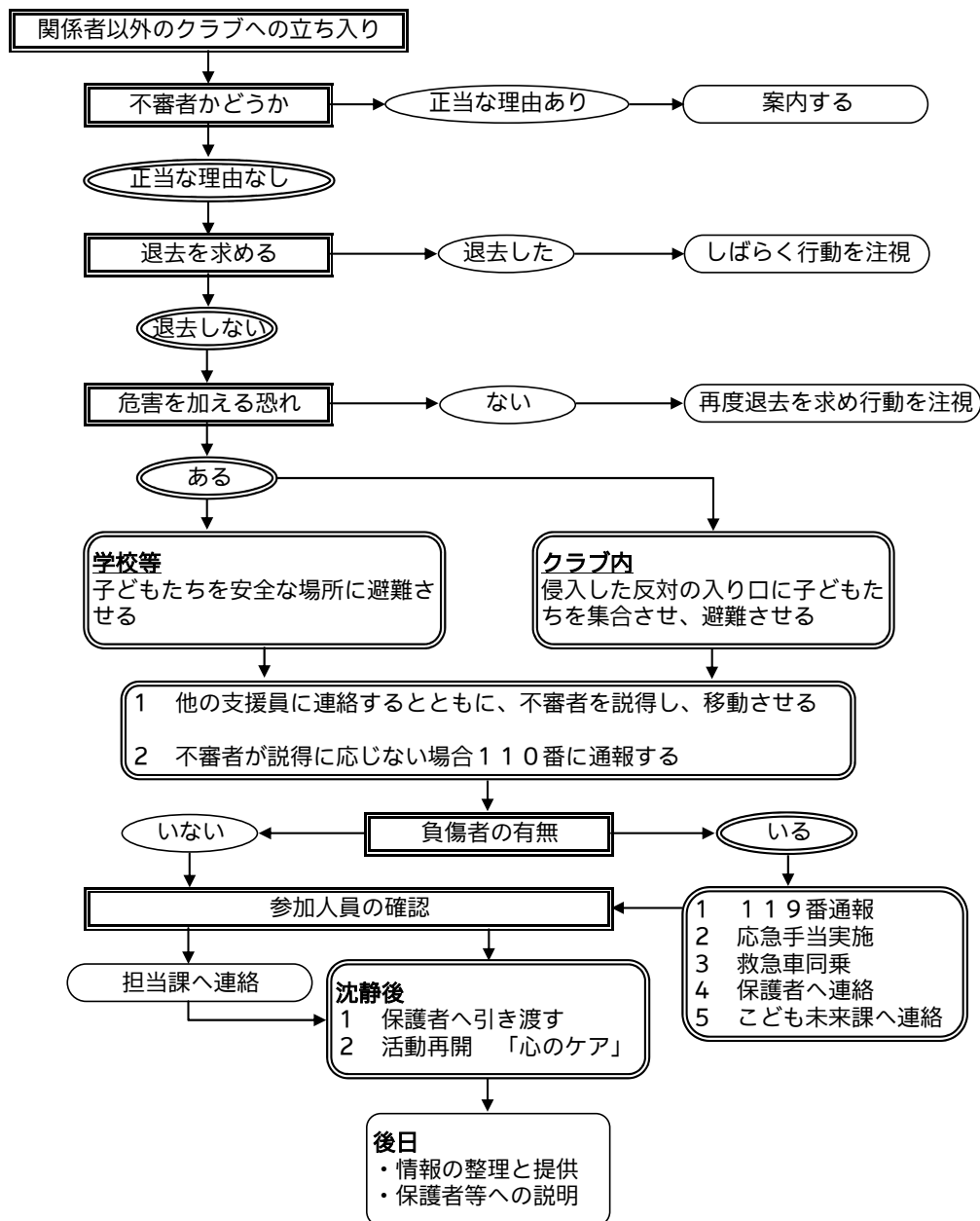
ウ 警察等関係機関へ連絡する。

エ 身の危険を感じた場合は、無理せず避難する。

#### (2) 不審者が支援員などの指示でクラブ外に退去した場合にも、しばらく行動を注視する。



## 4 不審者侵入対応チャート



## 【110番通報】

- ①局番無しの「110」（携帯も同じ）
- ②「〇〇児童クラブです。男（女）が侵入してきました。子どもが危険にさらされています。すぐに来てください。」
- ③通報者名・クラブ等の位置・電話番号

## 【救急車搬送】

救急車で子どもを病院に搬送する場合、その時刻や病院名等メモして相互理解できるようにする。

## 5 安全対策チェックリスト

チェック欄記入方法      A：行っている      B：概ね行っている      C：不十分

※B、Cの場合は改善の手立てを講ずる。

日常の対応		チェック1	チェック2	改善点・備考
		月 日	月 日	
1	参加児童を確認する方法は決めているか			
2	活動場所、支援員の配置と時間の確認はできているか			
3	緊急時の支援員の連絡方法（連絡網等）や役割分担は出来ているか			
4	外部から緊急事態等の連絡があった場合の対応方法は決めているか			
5	連絡先（警察、消防、病院等）への通報の方法などは分かりやすく掲示しているか			
6	事件や事故の情報があった場合、保護者や地域と連携して対応する体制が出来ているか			
7	防犯グッズの内容、扱い方、保管場所などの確認が出来ているか			
8	保護者・近隣等に対し、日頃から挨拶など声かけをする習慣が出来ているか			
9	クラブへの入口を可能な限り閉めるようにしているか			
10	児童の安全確保のための避難方法は決めているか			
11	不審者への対応の仕方について支援員間で理解し合っているか			
12	不審者への対応の仕方について訓練を実施しているか			
13	支援員不在時の他の支援員の役割分担は決めているか			

不審者侵入時の対応		チェック1	チェック2	改善点・備考
		月 日	月 日	
14	非常警報ブザー、火災報知器等危険を知らせる方法は決めているか			
15	避難誘導方法は決めているか			

登所・帰宅時の対応		チェック1	チェック2	改善点・備考
		月 日	月 日	
16	登所時、複数で決められたところを通るように伝えているか			
17	登所・帰宅経路で危険箇所について把握しているか			
18	問17について、児童や保護者に周知しているか			
19	問17について、安全マップを作成しているか			
20	万が一の事態に遭ったとき「大声を出す」「すぐ逃げる」「大人に知らせる」等の対処方法を児童に伝えているか			
21	「子ども110番の家」の場所は確認できているか			
22	近隣で発生した事件や事故について情報交換が出来る体制になっているか			
23	不審者の情報があった場合、関係機関と協力できる体制は取れているか			

## Ⅳ 緊急災害時の対応

### 1 日常の取組

- (1) クラブ独自の緊急災害時対応訓練の年間計画を作成し、対応訓練を実施する。
- (2) 地域防災拠点の訓練等、地域で行われる防災訓練に参加する。
- (3) 緊急災害時対応については、保護者会・クラブだより等で周知徹底し、保護者の理解と協力を得る。
- (4) 緊急災害時等の対応について、常日頃から支援員間で相互理解をしておく。

### 2 クラブを中止する場合

大規模な事件・事故・災害等が発生又は予想され、児童の安全を確保する上でクラブの活動を継続することが難しい場合は、こども政策課で中止の判断をする。

帰宅の際には、保護者に連絡を取り迎えに来てもらい、連絡がつかない場合は、クラブで待機させる。

- 【例】・大規模災害が発生又は予想され、今後、帰宅困難が見込まれる場合  
 ・犯罪及び事故により、児童に被害が出た場合 等

#### 郡山市の防災情報について

台風・地震など気象情報や市内の災害情報などを携帯電話やパソコン、電話やラジオからいち早く防災情報をお伝えします。

##### 【配信する情報】

配信手段	警報以上の 気象情報 ※雨・洪水・ 特別警報など	緊急地震速報 震度速報 ※大規模地震	避難準備情報 避難勧告 避難指示	ミサイル・ ゲリラ・テロ 情報	避難所情報 ※開設情報・ 空き情報など
防災ウェブサイト	○	○	○	○	○
SNS（フェイスブック・ツイッター）	○	○	○	○	○
電話ガイダンス	○	○	○	○	○
コミュニティ FM (郡山コミュニティ放送)			○	○	
防災行政無線		○	○	○	
緊急速報メール (エリアメール)			○	○	
メールマガジン	○	○	○	○	○
災害の発生状況や配信環境の状態により配信手段を変更することがあります。 上記の配信手段の他、テレビや他のラジオ局でも災害情報を提供します。					

### 災害用伝言ダイヤル

災害時には、安否確認、問合せの電話が急増し、電話がつながりにくい状況が続くことがあるため、「災害用伝言ダイヤル」を使って、伝言を録音したり、相手方の伝言を再生したりすることで状況の確認を行う。

伝言のダイヤルの使い方、使用が想定される場合、録音する内容などについて、保護者とも確認を行い、お互いに使えるようにすること。

#### 災害用伝言ダイヤル（１７１）

##### ■体験利用提供日

- 毎月１日、１５日
- １月１日～１月３日（正月三が日）
- ８月３０日 9:00～９月５日 17:00（防災週間）
- １月１５日 9:00～１月２１日 17:00（防災とボランティア週間）

##### ■提供条件

- 蓄積伝言数：１０伝言
- 伝言録音時間：３０秒
- 伝言保存期間：６時間

## 【災害用伝言ダイヤル（171）の基本的操作方法】

「171」をダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音、再生を行って下さい。

操 作 手 順		伝言の録音		伝言の再生			
①	171をダイヤル	171					
②	録音または再生を選ぶ。	[ガイダンス] こちらは災害用伝言ダイヤルセンタです。録音される方は「1」、再生される方は「2」、暗証番号を利用する録音は「3」、暗証番号を利用する再生は「4」をダイヤルしてください。					
		(暗証番号なし)	(暗証番号あり)	(暗証番号なし)	(暗証番号あり)		
		1	3	2	4		
		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX		[ガイダンス] 4桁の暗証番号をダイヤルして下さい。 XXXX			
③	被災地の方の電話番号を入力する。	[ガイダンス] 被災地の方はご自宅の電話番号、または、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。被災地域以外の方は、連絡を取りたい被災地の方の電話番号を市外局番からダイヤルして下さい。					
0XX XXX XXXX							
伝言ダイヤルセンタに接続します。※1							
④	メッセージの録音 メッセージの再生	[ガイダンス] 電話番号XXXXXXXX(、暗証番号XXXX)の伝言を録音します。プッシュ式の電話機をご利用の方は数字の「1」のあとシャープを押して下さい。ダイヤル式の方はそのままお待ち下さい。尚、電話番号が誤りの場合、もう一度おかけ直し下さい。					
		ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合	ダイヤル式電話機の場合	プッシュ式電話機の場合		
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1#	(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	1#		
		[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音の後に、30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら、電話をお切り下さい。	[ガイダンス] 伝言をお預かりします。ピッという音の後に、30秒以内でお話下さい。お話が終わりましたら、数字の9の後シャープを押して下さい。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。	[ガイダンス] 新しい伝言からお伝えします。伝言を繰返す時は、数字の8の後シャープを、次の伝言に移る時は、数字の9の後シャープを押して下さい。		
		伝言の録音		伝言の再生			
		(ガイダンスが流れるまでお待ちください)	録音終了後 9# [ガイダンス] 伝言を繰返します。訂正される時は数字の8の後シャープを押して下さい。 録音した伝言内容を確認する。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。	[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です。伝言を追加して録音される時は、数字の3の後、シャープを押して下さい。 (ガイダンスが流れるまでお待ちください)		
		[ガイダンス] 伝言をお預かりしました。		[ガイダンス] お伝えする伝言は以上です			
		自動で終話します。					
		⑤	終了				

通話料は発生しません

通話料が発生します※

通話料は発生しません

通話料が発生します※2

※1センタ利用料について

伝言録音・再生を行うためのセンタ利用料は無料です。

※2通話料について

「メッセージの録音」操作時において、録音できる伝言数を超過していた場合、または、  
 「メッセージの再生」操作時において、お預かりしている伝言がない場合は通話料はかかりません。

**覚えてください、災害時の声の伝言板 災害用伝言ダイヤル(171)**

### 3 地震発生時の対応

大災害が発生したときは、的確な判断と明確な指示のもとに、統一された行動を取ることが大切です。第一に責任者を明確に定めておくことが何よりも大切なことです。指揮・命令系統が複数あったり、不明確であったりすることは混乱を招き、大事故につながる危険性があります。

なお、(2)以降で示す内容は一般的な例示になりますので、各クラブ、学校等の状況にあわせてシミュレーションを行い、適宜それぞれに合った対応マニュアルを作成する。

#### (1) 留意点

- ア 冷静沈着に指揮し、児童に不安を与えないようにします。
- イ 児童の安全を最優先します。
- ウ 支援員の役割を明確にし、声を出しながら確認し、協力連携を密にします。
- エ 非常持ち出し袋を携帯します。

【非常持ち出し袋に入れるもの】

緊急時引渡し名簿、関係機関連絡先、救急用具 等

地震発生後の児童の避難場所について、事前に学校、保護者の間で取り決めに交わした上で、学校の安全な場所に避難するか、児童クラブに避難するかを決め、保護者へ周知してください。

#### (2) 時間帯別の対応

ア 時間帯別の基本行動（震度5強以上の地震の場合）

	学校の対応	お迎えを待つ場所	
		学校	放課後児童クラブ
学校がない日	教職員は、震度5強以上の地震が観測された場合には、学校に参集し、災害対策本部を設置する。	<b>i 開設前の地震発生</b> 開設しない	
		<b>ii 開設後の地震発生</b> 児童の安全を確保し、学校に避難。教職員が参集してきたら、状況を報告し、指示に従う。	<b>ii 開設後の地震発生</b> 児童の安全を確保し、クラブで待機する。
登校前	学校に災害対策本部を設置	地震がおさまった場合でも、当日は開設しない。	
登校時	学校に災害対策本部を設置。順次登校してきた児童に対応。既に学校にいる児童は、教職員の指示に従う。	地震がおさまった場合でも、当日は開設しない。	

	学校の対応	お迎えを待つ場所	
		学校	放課後児童クラブ
授業中	学校に災害対策本部を設置 保護者への連絡、児童を待機させるなど、必要な措置をとる。	<b>i 支援員が出勤している場合</b> 児童は学校に待機 支援員は学校に行き、指示に従い、児童の保護及び保護者のお迎えの対応を学校に協力して行う。 （学校との役割分担等は、事前に調整してください。）  <b>ii 支援員が出勤できない場合</b> 児童は学校に待機 支援員が出勤できない場合の引き渡し等の対応については、学校や保護者と事前に取り決めを交わしてください。	<b>i 支援員が出勤している場合</b> 児童は学校に待機、支援員に引き渡し。  <b>ii 支援員が出勤できない場合</b> 児童は学校に待機 支援員が出勤できない場合の引き渡し等の対応については、学校や保護者と事前に取り決めを交わしてください。
放課後	学校に災害対策本部を設置	<b>i 下校中の地震発生</b> 児童は学校に避難する。 クラブ近辺で被災した場合は、クラブに避難する。 クラブに避難している児童は、安全を確保し、支援員とともに学校に避難する。 教職員に状況を報告し、指示に従い、児童の保護及び保護者のお迎えの対応を行う。  <b>ii 活動中の地震発生</b> 児童の安全を確保し、学校に避難する。 教職員に状況を報告し、指示に従い、児童の保護及び保護者のお迎えの対応を学校に協力して行う。	<b>i 下校中の地震発生</b> 児童は学校に避難する。 クラブ近辺で被災した場合は、クラブに避難する。 学校に避難している児童は支援員に引き渡し。  <b>ii 活動中の地震発生</b> 児童の安全を確保し、クラブで待機。 児童の保護、保護者への連絡及び引き渡しの対応を行う。

## イ 時間帯別の具体的な行動

## (ア) すべての時間帯に共通する行動

安全確保	<p><b>支援員</b></p> <p>○落下物・転倒物・ガラスの飛散から身を守るよう指示する。 (児童には頭部を守るように指示)</p> <p><b>児童</b></p> <p>○あわてて外に飛び出さない。落下物等を避けるため、窓や壁際から離れる。</p> <p>○施設内で地震を感じたら、できるだけ中央に伏せ、ガラス等から身を守る。</p> <p>○屋外で被災した場合は、落下物を避けるため、速やかに建物等から離れ、中央に避難する。</p>
避難誘導	<p><b>支援員</b></p> <p>○児童の状況（負傷者はいないか等）を把握し、人数確認を正確に行う。</p> <p>○発火を防止するため、電気のコンセント等を全て抜く。</p> <p>○避難用の出口を確保する。</p> <p>○避難の際に援助を要する児童への対応に十分配慮する。</p> <p><b>児童</b></p> <p>○避難の際は、頭部を守り、靴を履いて行動する。</p> <p>○避難の途中でクラブに戻ったら、集団から離れたりしない。</p> <p>○ガラスの破片で怪我をしないように注意する。</p> <p>○スタッフの指示を良く聞き、勝手な行動をしない。</p>



## (イ) 放課後児童クラブ活動中

## 【教職員が在校している場合～学校開校日】

(ア) に加え、放課後児童クラブの支援員が児童の安全を確保するようにしてください。

なお、学校との間では、「学校との連絡方法」「避難場所」「放課後児童クラブ支援員の役割」について相談し、保護者との間では、「保護者への連絡方法」「保護者への児童引き渡し」について相談し、対応を決めておくようにしてください。

	学校に避難する場合	放課後児童クラブで待機する場合
避難誘導	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○非常持ち出し袋を携帯し、学校へ避難する。</li> <li>○避難の際には、頭部を保護し、より安全な経路で避難するよう指示する。(日頃から安全な避難経路を確認しておく必要がある。)</li> <li>○学校と調整している場所へ避難したら、学校の指示に従い、協力して児童の安全確保に努める。</li> </ul>	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○非常持ち出し袋を携帯し、安全な場所へ避難する。</li> <li>○避難の際には、頭部を保護するよう指示する。</li> <li>○クラブが安全であることが確認できた場合は、支援員が協力して児童の安全確保に努める。</li> </ul>
待機 引き渡し	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員に状況を報告し、指示に従い、児童の保護を行う。</li> <li>○クラブ又は学校から保護者へ連絡し、保護者へのお迎えの対応を行う。</li> <li>○保護者と連絡が取れない場合等、引き渡し困難な児童については学校で待機する。</li> </ul>	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラブで、児童の保護を行う。</li> <li>○保護者に連絡し、クラブにおいて保護者への引き渡しを行う。</li> <li>○保護者と連絡が取れない場合等、引き渡し困難な児童については、クラブで待機する。</li> </ul>

## (ウ) 放課後児童クラブ活動中

## 【教職員が在校していない場合～土曜日・長期休業期間】

(ア) に加え、土曜日及び長期休業期間中は、学校、保護者との取り決めを行った上で、放課後児童クラブ支援員が児童の安全を確保するようにしてください。

	学校に避難する場合	放課後児童クラブで待機する場合
避難誘導	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○非常持ち出し袋を携帯し、学校へ避難する。</li> <li>○避難の際には、頭部を保護し、より安全な経路で避難するよう指示する。(日頃から安全な避難経路を確認しておく必要がある。)</li> <li>○学校と調整している場所へ避難したら、支援員が協力して児童の安全確保に努める。</li> <li>○校長、教頭など、学校が取り決めている連絡先に児童の状況を連絡する。</li> </ul>	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○非常持ち出し袋を携帯し、安全な場所へ避難する。</li> <li>○避難の際には、頭部を保護するよう指示する。</li> <li>○クラブが安全であることが確認できた場合は、支援員が協力して児童の安全確保に努める。</li> </ul>
待機 引き渡し	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地震の発生時には、校長や教頭及び連絡調整者が学校に参集するため、来たことを確認した段階で状況を報告し、指示に従い、児童の保護を行う。</li> <li>○クラブ又は学校から保護者へ連絡し、保護者へのお迎えの対応を行う。</li> <li>○保護者と連絡が取れない場合等、引き渡し困難な児童については学校で待機する。</li> </ul>	<p><b>支援員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラブで、児童の保護を行う。</li> <li>○保護者に連絡し、クラブにおいて保護者への引き渡しを行う。</li> <li>○保護者と連絡が取れない場合等、引き渡し困難な児童については、クラブで待機する。</li> </ul>

(エ) 放課後児童クラブに登所するとき、帰るとき

①放課後児童クラブに登所するとき（学校開校日）

既にクラブに登所している児童と、まだ学校にいる児童に分かれているため、クラブに登所している児童については、「(イ) 放課後児童クラブ活動中」に準じて行動するようにしてください。

また、まだ学校にいる児童については、学校に待機又は支援員引き渡しとなります。

どちらの場合においても、学校と相談して、①保護者への連絡、②児童の避難場所、③支援員の役割について決めておくようにしてください。

②放課後児童クラブに登所するとき（土曜日・長期休業期間）

既にクラブに登所している児童と、登所途中又は家にいる児童に分かれるため、クラブに登所している児童については「(ウ) 放課後児童クラブ活動中」に準じて行動するようにしてください。

登所途中の児童が、クラブに到着したら、順次受け入れを行ってください。

家にいる場合には、クラブに登所しないように、あらかじめ保護者に伝えるようにしてください。

③放課後児童クラブから帰るとき

基本的には、必ず保護者（又は代理の方）が迎えに来るため、迎えがあるまではクラブで児童を待機させるようにしてください。

集団下校等で一度学校から帰った児童が、再度クラブに戻ってくる可能性があります。その場合、児童の把握を行い、状況を保護者へ連絡してください。

活動中（放課後児童クラブ施設外にいる場合）	
発生時の 第一行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○騒がないこと。</li> <li>○屋内にいるときは、窓や壁際から、屋外にいるときは建物や施設からすばやく離れ、中央部に集合し、身を低くすること。</li> <li>○支援員の指示を静かに最後まで聞くこと。</li> <li>○揺れが収まるまで、自分勝手な行動をしないこと。</li> </ul>
避難行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○騒いだり、走りまわったり、押し合ったりしないで、すばやく行動すること。</li> <li>○支援員が近くにいない場合は、落ち着いてその場所で支援員が来るまで待機すること。</li> </ul>
支援員の 指示と行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大声で、指示の徹底を図る。</li> <li>○窓や壁際、建物等から速やかに離れ、中央部に集合させ、揺れが収まるまで身を低くさせる。</li> <li>○人員の掌握に努め、負傷者の有無や応急手当の必要性を確認する。</li> </ul>

放課後児童クラブに来るとき、帰るときの行動
<p>○クラブに来る途中で地震が発生した場合は、学校の校庭など安全な場所に避難する。揺れが収まったら、周囲の安全を確認し、学校かクラブか近いほうに避難する。</p> <p>○クラブから帰る途中で地震が発生した場合は、近くの公園、空き地など安全な場所に避難する。揺れが収まったら、周囲の安全を確認し、クラブか自宅か近いほうに避難する。</p>

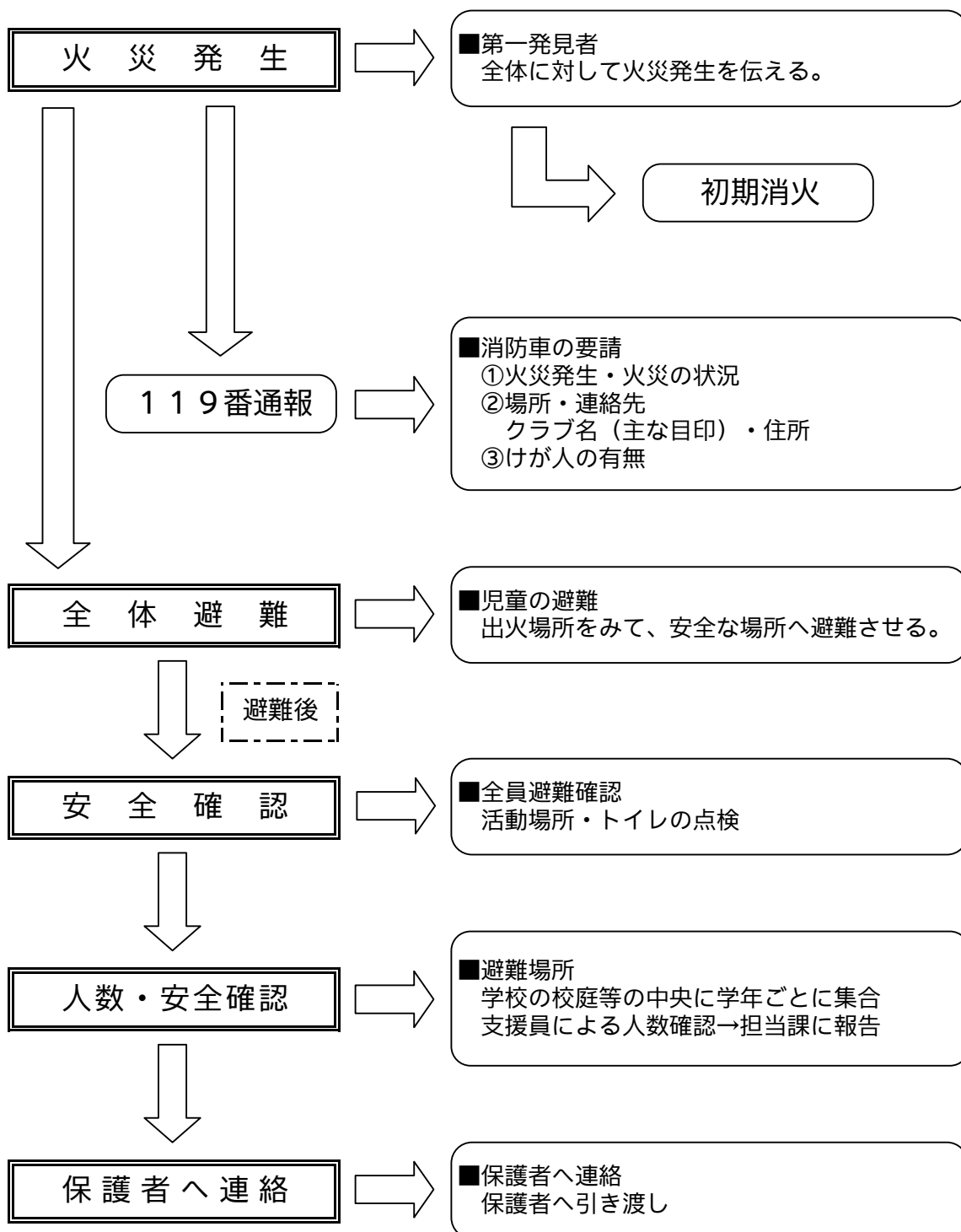
地震発生時の安全な行動（放課後児童クラブ施設外での活動の場合）
<p>○建物外壁や窓ガラスの落下、建物の倒壊、看板等の落下物がある場合は、カバンなどを頭へのせ、すばやくその場所から離れる。</p> <p>○ブロック塀や石垣など倒壊の危険のある場所からは、すばやく離れる。</p> <p>○山間部にいる場合は、山崩れやがけ崩れが起こる可能性があるので、迅速に安全な場所に避難する。</p> <p>○がけ下、川岸、河川敷などは、地割れ、地滑り、液状化現象が起きやすいので、すぐに離れる。</p> <p>○建物が立て込んでいる狭い道路を通っているときは、できるだけ早く広い場所に避難する。</p> <p>○古い建物など危険と思われる場所には近づかない。</p> <p>○倒れた電柱、たれさがった電線に近づかない。</p> <p>○橋の上は危険なので、すぐに離れる。</p>

## ④災害時の役割分担

担 当	内 容	担当者
連 絡	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体の把握</li> <li>・適切な措置</li> <li>・学校、こども政策課との連絡調整</li> </ul>	
避難誘導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の安否確認</li> <li>・避難誘導、状況報告</li> <li>・児童数の確実な確認</li> <li>・保護者への児童引き渡し</li> <li>・非常用持ち出し袋</li> </ul>	
初期消火	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初期消火活動</li> <li>・電気のブレーカーを落とす、又はコンセント等を全て抜く</li> <li>・安全点検</li> </ul>	
救 護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の救護</li> <li>・救急用品の確保</li> </ul>	
<p>【関係機関】警察：１１０      消防：１１９      災害用伝言ダイヤル：１７１</p> <p>こども政策課：９２４－３８０１</p>		

#### 4 火災発生時の対応

クラブ内において出火の際は、発見者が全体に火災発生を伝え、速やかに消防署に連絡するとともに、児童の安全確保を最優先に以下の手順で迅速に対応する。



## 5 水害・土砂災害発生時の対応

児童クラブ活動中に水害・土砂災害を含む非常災害が発生した場合、的確な判断と明確な指示のもとに、統一された行動が大切である。日頃から、消防等関係機関との通報体制や、学校、保護者及び、こども政策課との連絡体制を再確認するとともに、テレビ、ラジオ、インターネット等により本市の気象、災害、防災情報の収集に努め、危険が想定される場合はマニュアルに従い、着実に避難を行うようにする。

### 【事前の避難場所の確認】

水害や土砂災害は、各小学校の立地条件によって、発生状況が異なる。各地区のハザードマップを確認の上、各小学校における避難場所、避難経路、避難方法を確認する。

### 【避難を開始する時期・判断基準】

「避難準備・高齢者等避難開始」の発令時等、あらかじめ学校に避難の判断基準を確認し、避難を要する場合は、学校と連携して速やかに指定された避難場所へ避難を開始するようにする。

### 【参考】（引用元：郡山市公式ウェブサイト）

警戒レベル	とるべき避難行動	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況 命を守るための最善の行動	災害発生
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先に避難 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内のより安全な場所に避難	避難指示
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人（ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児等）とその支援者は避難。 その他の人は、避難の準備	避難準備・高齢者等避難開始
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認	洪水注意報 大雨注意報等
警戒レベル1	災害への心構え	早期注意情報

### 【警報等発表時の対応】

水害・土砂災害については、事前に警報等が発表され、前もってある程度対処することも可能である。警報等発表時には情報収集を怠らず、冷静な判断のもと、状況に応じた対応ができるように心がける。

#### ア 情報の収集と発信

- ・ラジオ・テレビ、市、警察、消防、自主防災組織等、クラブ内外から極力正確な情報入手し、的確な指示を行う。
- ・児童等に現在の災害状況を定期的に伝え、不安や動揺を与えないようにする。

#### イ 役割分担

- ・支援員の役割分担（連絡、避難誘導、救護）を確認し、速やかにその任務に就き、避難等の対応ができるよう準備を進める。

ウ 火元の点検

- ・被災時の被害拡大を防止するため、火元や危険物の確認を行う。

エ クラブの安全確保

- ・ロッカー等転倒すると危険なものはあらかじめ倒す。
- ・出入口の窓をしっかりと閉鎖し、必要に応じて外部面の窓ガラスを保護する。
- ・ガラス破損の時の布製ガムテープを準備する。

オ 救護活動の準備

- ・必要な医薬品等が備蓄されているかを点検する。

カ 生活用品等の保護

- ・浸水等のおそれがある場合には、備品、医薬品、衛生材料といった生活用品等を高所に移動する。

キ クラブ外に避難する場合の避難誘導の準備

- ・避難経路、避難方法、点呼等の安全確認方法、持出品、役割等を確認する。
- ・児童等の最低限必要な情報をリスト化し、まとめておいたものを持ち出す準備をする。
- ・支援員数、児童等の状態により避難の実施が困難な場合は、こども政策課や学校に協力を要請し、対応する。それでも対応ができない場合は、警察や消防に応援を求める。

ク クラブ周辺の点検・見回り

- ・クラブ周辺の点検・見守り等においては、危険な前ぶれ、前兆に注意する。ただし台風が通過している最中や雨が強く降っているときに、外の様子を確認しに外出することは差し控える。水の状態は急変することもあるので、河川や用水路等の状況を確認しに行くことも非常に危険なので差し控える。

ケ 避難の判断

- ・クラブの状態、立地条件やクラブの周辺の環境、被害状況、外部からの情報等を総合的に判断し、学校での対応を確認した上で、避難の可否を決定する。学校が避難を開始する場合には、クラブでも速やかに避難を開始する。

コ 避難誘導

- ・クラブ外への避難が必要と判断したときは、支援員は速やかに児童等に避難を開始する旨を伝え、安全に避難場所等まで避難する手順を指示する。

サ 保護者等への情報発信

- ・クラブ外へ避難した場合は、事前に定めた災害時における連絡方法により、保護者等に対して現在の状況を連絡する。ただし被災状況によっては、電話の混線や切断により連絡が取れなくなることがあるため、施設外へ避難する場合は、建物入口に避難先、連絡先、避難する人数等を記した貼紙をする等、保護者への周知に努める。

シ 児童の保護者等への引き渡し

- ・警報又は注意報が解除される等、安全が確認されたのち、あらかじめ定められた場所と方法で、保護者への引き渡しを行う。

ス 避難が不要な場合の対応

- ・クラブ内にとどまる場合は、支援員は速やかに児童等を建物の安全なスペースに誘導する。
- ・備品、食料品、衣料、医薬品といった生活用品等についても高所に移動する。
- ・災害発生時は、利用可能な設備や器具を最大限に利用し、支援員が協力して児童の安全確保にあたる。



セ 安全点検

- ・給水、供电等のライフラインの設備に支障がないかを点検する。
- ・ガラスの破損、備品の転倒等を点検し、必要な清掃を実施する。

【緊急時の水害・土砂災害への対応】

避難の前に台風の暴風圏内に入る、近くの河川が増水する等、クラブに危険が迫っている状況での対応について、特に以下の点で注意を要する。

ア クラブ周辺の確認

- ・クラブ周辺の状況から、土砂崩れ等二次被害の危険がないか確認する。また浸水等で既にクラブが被災した場合は、消防機関等や学校、こども政策課へ被災状況を連絡し、必要な指示を受ける。
- ・浸水等で漏電する恐れがあるので、危険な箇所を発見した場合は、こども政策課、電力会社又は電気工事業者の判断を得る。

イ 避難又はクラブでの待機の判断

- ・河川の氾濫や暴風によって避難が困難と予想される場合は、救助が来るまでクラブ内で待機することも検討する。なお、クラブ内で待機する場合、連絡が取ることができる間に消防機関や学校、こども政策課にその旨を連絡する。

ウ 風水害発生時の避難誘導

- ・風水害発生時に避難する場合、突然の大雨や強風等に遭遇する可能性もあるため、避難の際は以下の点について特に注意する。
  - ①突然強風が発生する場合もあるので、風が弱いと感じても注意し、風が強くなるなど、危険を感じたら、クラブに引き返すことを検討する。
  - ②長靴で避難すると、冠水した際に靴に水が入って動きが制限されるため、運動靴等動きやすい靴を着用することが好ましい。
  - ③冠水すると足元が見えにくくなるため、先頭の人は傘や棒等長いもので足元を確認しながら避難する。

エ クラブ内での待機

- ・児童や支援員の安全を守るため、状況によっては救助が来るまでクラブ内で待機することがある。救助までの間、クラブ内で児童や支援員の安全を確保する。

オ 安全点検

**危険な前触れ・前兆の例**

- ・集中豪雨は予報が困難…注意報や警報は急に出る。常時、情報に気を付ける
- ・土砂災害は一瞬にして起こる…児童は逃げ遅れる危険が大きい。早めの避難が大切
- ・危険な前ぶれの察知

**【土石流】**

- ①水が濁り、流木等が流れてくる
- ②雨が降り続けているのに川の水位が下がっている
- ③山鳴りがする（ミシミシと音をたてる）

**【地すべり】**

- ①沢や井戸の水が濁る
- ②斜面にひび割れや変形がある
- ③がけや斜面から水が噴出している

**【がけ崩れ】**

- ①がけから音がする
- ②がけに割れ目が見える
- ③がけから水が湧き出ている

**施設で待機する場合の諸注意事項**

風水害の発生時に施設内で待機する場合、施設内にいても必ずしも安全とは限りません。児童、支援員の安全を守るため、以下の点についても注意してください。

**①風害（台風等）の場合**

ア 飛来物でガラスが割れたりする可能性もあるので、ガラスの飛散を防ぐためカーテンを引き、極力窓から離れた場所で待機する

イ ドアや窓はきちんと閉め切る

ウ 風雨の音で児童が不安を感じて混乱する場合もあるため、やさしく声がけする等して落ち着かせる

**②水害の場合**

ア 水等に浸からないように、できるだけ高所へ避難する

イ 漏電による感電や、伝染病等の危険があるため、児童、支援員が浸水してきた水等に浸からないように注意する

## 6 非常災害への備え「チェックリスト」

1	防災訓練を計画し、内容を学校に確認しているか。	
2	計画した防災訓練を実施しているか。（年2回以上）	
3	引き渡し訓練の際の行動について、実践に即した内容で対応するよう学校と調整できているか。また、その内容が保護者に周知されているか。	
4	災害発生時の対応について、支援員間で共通理解を図り、その内容を保護者に伝えているか。	
5	災害発生時における支援員の役割分担が明確にされ、全員が理解しているか。	
6	地震等、災害発生時に学校へ避難する場合は、学校の指示に従い行動することについて、支援員が理解しているか。	
7	学校や保護者との連絡調整の窓口を決め、担当者がその役割を理解しているか。	
8	支援員が、学校と取り決めた避難場所を理解しているか。	
9	非常持ち出しする重要書類を把握するとともに、持ち出す役割の支援員を決めているか。	

## 7 気象警報発令時（大雨・洪水・暴風・暴風雪・大雪）の対応

気象警報発令により学校が休校の場合は、児童クラブを閉所する。

### （１）児童クラブ閉所の対応について

#### 【学校開校日（平日）】

学校からの学校休校の連絡と併せて児童クラブ閉所を保護者へ連絡する。

また、学校休校日（土曜日・日曜日・祝日）に翌日の学校休校が決定した場合についても、学校からの学校休校の連絡と併せて児童クラブ閉所を保護者へ連絡する。

なお、支援員への連絡は、こども政策課から「放課後児童クラブ支援員緊急連絡網」により連絡する。

#### 【学校休校日（土曜日・長期休業期間）】

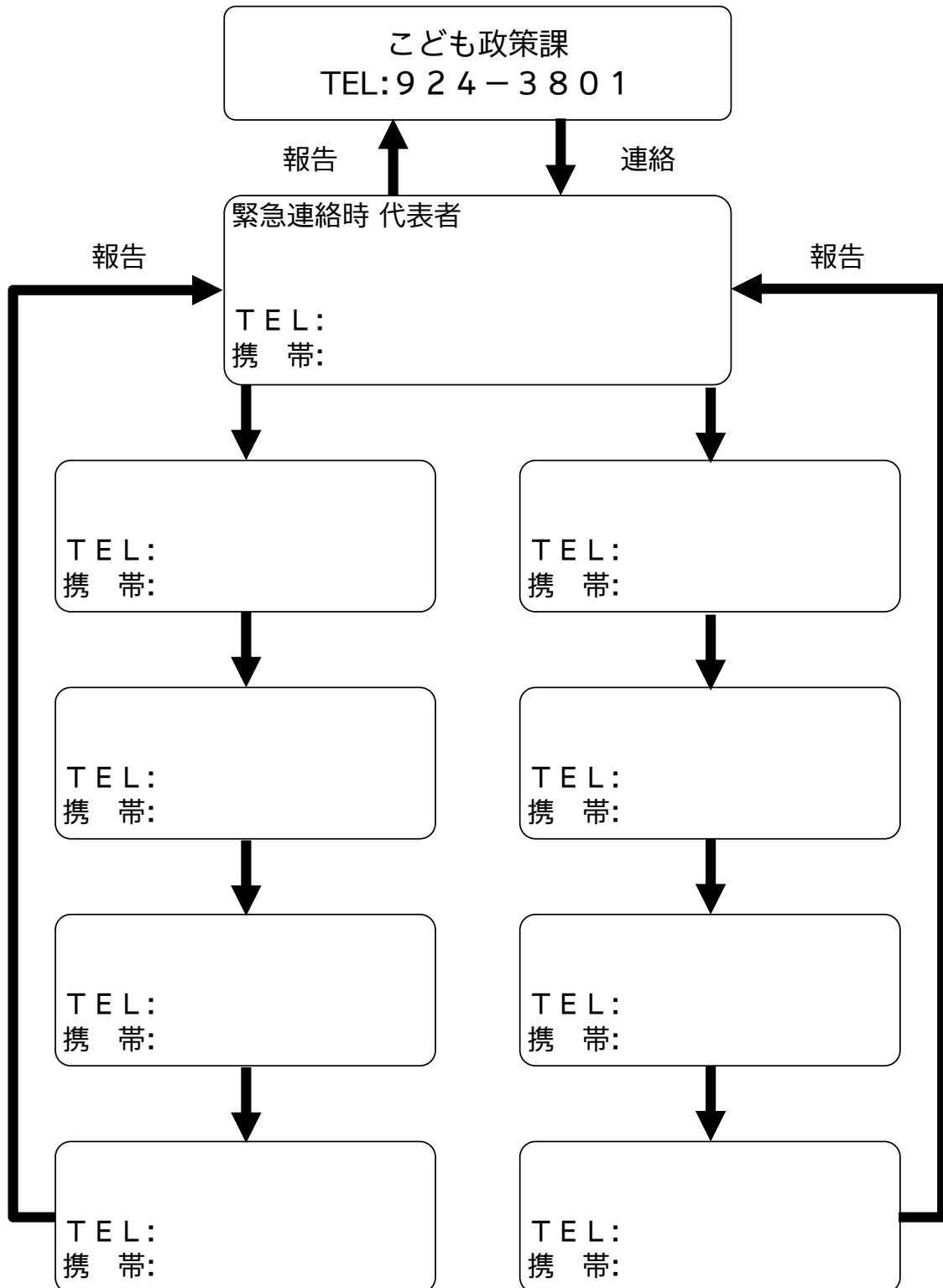
土曜日・長期休業期間の児童クラブ閉所については、こども政策課が決定し、次の連絡方法により保護者へ連絡する。

閉所決定	連絡方法
前日又は開所前に 閉所が決定	こども政策課 ⇒ 児童クラブ支援員 ⇒ 登録児童の保護者
開所中に当日閉所が決定	こども政策課 ⇒ 児童クラブ支援員 ⇒ 利用児童の保護者

#### 【参考】主な警報の種類及び発表基準（郡山市）

種 類	基準要素	警 報
大 雨	3 時間雨量	80 mm
洪 水	3 時間雨量	80 mm
暴 風	平均風速	18m/s 以上
暴風雪	平均風速	18m/s 以上 雪を伴う
大 雪	平 地 12 時間降雪の深さ	25 cm
	山沿い 12 時間降雪の深さ	35 cm

## 放課後児童クラブ支援員緊急連絡網



## 8 インフルエンザへの対応

### (1) 学級・学年閉鎖等の場合の対応

インフルエンザの流行等で、学級・学年・学校閉鎖となった場合については、感染の拡大を防止するため、学級閉鎖となった児童の参加は自粛する。ただし、学級閉鎖が学級・学年単位の場合は、他の学級・学年の児童の活動は行う。

なお、学級閉鎖となった場合の対応については、「保護者会」「クラブだより」等を通じて次のとおり周知徹底を図る。

閉鎖学級の児童は体調不良の有無にかかわらず、感染の拡大を防止するため児童クラブの参加はできません。

### (2) インフルエンザの予防策

日々の活動では、うがい手洗いやマスクの着用を励行するとともに、急速な状況の変化があっても迅速に対応できるよう学校と綿密な連携を図り、感染拡大防止に積極的に取り組む。

- ・感染を防ぐために流水と石けんで手洗いし、うがいを行う。
- ・洗っていない手で、目や鼻、口を触らないよう習慣づける。
- ・咳やくしゃみの症状がある方は、必ずマスクをする。
- ・マスクを持っていない場合は、他の人から顔をそらし、ティッシュなどで口と鼻をおおうなどの咳エチケットを心がける。
- ・栄養と休養を十分に取り、免疫力を高める。

## 9 新型コロナウイルス感染症への対応

### (1) 学級・学年閉鎖等の場合の対応

新型コロナウイルス感染症で、学級・学年・学校閉鎖となった場合については、感染の拡大を防止するため、学級閉鎖となった児童の参加は自粛する。ただし、学級閉鎖が学級・学年単位の場合は、他の学級・学年の児童の活動は行う。

なお、学級閉鎖となった場合の対応については、「保護者会」「クラブだより」等を通じて次のとおり周知徹底を図る。

閉鎖学級の児童は体調不良の有無にかかわらず、感染の拡大を防止するため児童クラブの参加はできません。

### (2) 感染が疑われる場合の対応

「37.5℃以上の発熱」「味覚障害、嗅覚障害」「咳、鼻水、喉の痛み、筋肉痛、倦怠感などの風邪の症状」に該当する児童が学校から登所した場合、又は、児童クラブ開設中に感染が疑われる症状が発症した場合は、保護者に連絡を取り、迎えを依頼する。また、土曜日・長期休業期間の朝、体調の悪い状態の児童が保護者に連れられて児童クラブに登所した場合、児童クラブで過ごすことはできない旨を伝える。

### (3) 新型コロナウイルス感染症の予防策

「3密（密集、密接、密閉）」を避けるため、外遊びを増やす、おやつの時間をずらすなどの対策を図る。また、マスクの着用、「うがい、手洗い、換気」の励行、並びにクラブ内の消毒を徹底する。

## V 病気・けがへの対応

### 1 安全確保

事故を完全に防ぐことは難しい面もある。支援員が、適宜、各活動場所を巡回するなど目が届くようにし、安全確保に十分留意する。

### 2 病気の児童が通所した時の対応

病気（熱が高い（体温が37.5℃以上（発熱））、お腹の調子が悪いなど）の児童が通所した場合は、至急、保護者に連絡を取り、迎えにくるようをお願いする。

また、土曜日・長期休業期間も、体調の悪い状態の児童が保護者に連れられて通所した場合、ご家庭で安静に治療に専念することをお願いする。

### 3 事故が起きた時の対応

- (1) 児童への問診は、児童の状況を観察しながら慎重に行う。
- (2) 事故がおきた場合、軽易なけがについては、支援員が手当てを行う。
- (3) 頭部・顔面など首から上、腹部のけがについては原則として病院で受診することを前提として対応する。

#### <軽症の場合>

- ①状況の確認
- ②支援員が救急用薬品を使用して応急措置を行う。
- ③保護者に連絡を取り、迎えに来てもらう。(帰る必要がない程度であればそのまま様子を見る)
- ④必要に応じ、当該児童の保護者へ連絡して経過を聞く。
- ⑤必要に応じ、事故報告書をこども政策課へ提出する。

#### <重症の場合>

- ①状況の確認。
- ②頭部・顔面など首から上、腹部の傷・打撲を伴う受傷のあった場合には、応急処置後、保護者に連絡を取り、了承を得た上で、配付してある「タクシー券」を使用して、支援員が同行して病院に行く、若しくは、保護者にすぐに迎えに来てもらい、病院に連れて行ってもらようよう依頼する。病院受診に当たっては、外傷や腫れの程度、出血の有無、児童の症状（嘔吐、気分の悪さなど）等を考慮し、必要に応じ養護教諭へ協力依頼するなどにより判断する。
- ③意識不明・呼吸停止・心停止・動脈性出血といった生命にかかわる事故の際は、ためらわず救急車を要請する。
- ④救急車が到着するまでの間、学校・保護者・こども政策課に連絡する。
- ⑤救急車が到着したら支援員が付き添って行く。
- ⑥病院到着後、再び学校・保護者・こども政策課に連絡する。
- ⑦保護者が来たら状況を報告する。
- ⑧事故対処後、事故報告書をこども政策課へ提出する。

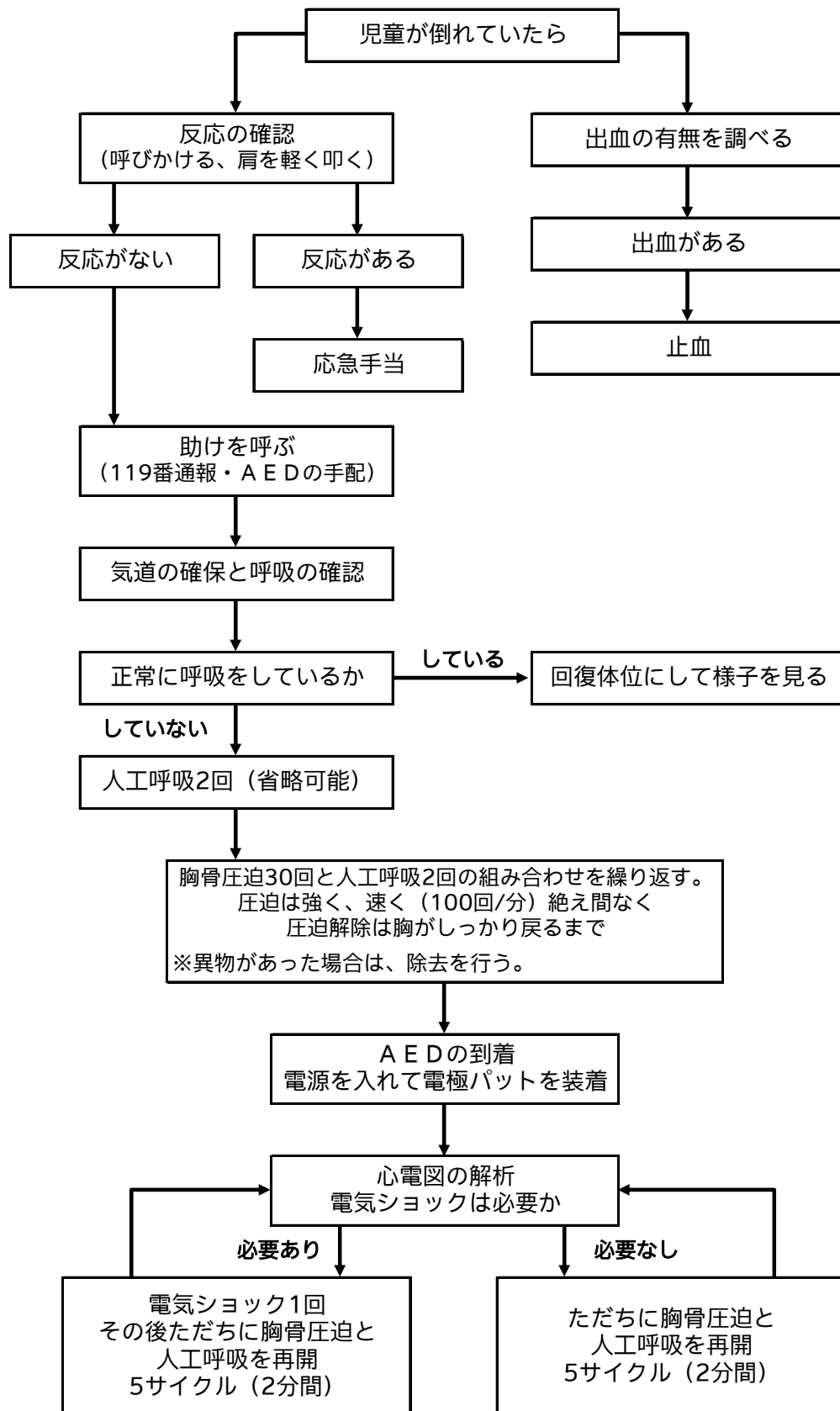
※保護者との連絡がつかない場合は、状況を判断して、適切な対応を行い、連絡がつき次第、経過を説明する。その際、保護者の心情を察し、誠意ある対応を心がける。

※医療機関を受診した後は、医師の指示に従って対応し、保護者に引き渡すまで責任を持って対応する。

※傷害保険等の内容・手続きを確認しておく。

## 4 具体的な対応

### (1) 救急処置フローチャート





## (2) 医療機関・救急車との連携について

意識不明・呼吸停止・心停止・動脈性出血といった生命にかかわる事故の際は、救命手当を行いながら、ためらわず救急車を要請する。

その他、激しいショック、急性腹症、てんかんの重積発作、ひどいやけど（広い範囲・顔面・気道部）、中毒なども緊急性が高い。

なお、自家用車による搬送はしない。救急車を要請しない場合は、タクシーで搬送する。

救急処置をした後、次の場合は、医療機関に連れて行く。

①切傷・裂傷－縫合が必要と思われる大きさの傷

②関節部の傷

③骨折・脱臼－全部

④捻挫－Ⅱ度（中等症）以上のもの

⑤熱傷－Ⅱ度（中等症）以上のもの、体表面 1%（事故者の手のひら大）以上のものなど

## (3) 大出血の手当

動脈が傷ついた時は、拍動的に鮮血がふき出る。全血液量の約 10%（体格により血液量が違うため一概には言えない）が失われると、精神的不安や立ちくらみを感じたり、脈拍が多くなる（100/分以下）。20%位失われると軽度の出血性ショックの症状を呈する。外出血のある場合の止血は、基本的には、

①直接圧迫法：患部にガーゼを当て、しっかりおさえる。

②圧迫包帯法：ガーゼの上から巻軸帯もしくは、三角巾で巻いて圧迫止血する。

③拳 上：患部を拳上することで止血しやすくする。

④間接圧迫法：止血点を圧迫することで動脈流を止め、止血する。

以上を併用しても止血できない場合に限り、止血帯を使う。

## (4) 頭部

頭部には頬や顔面も含む。首から上の部分に打撲を伴う受傷のあった場合には、外見上傷になっていなくても、原則として、医療機関で受診することを前提として対応する。

### ア 皮フの裂傷

頭部は血管が豊富なので出血量が多く、止血しにくいことがある。直接圧迫だけで十分な効果が得にくい時は、ハンカチなどを豆しぼり状に固く絞って円座をつくり、患部の周囲を圧迫する。止血が完了したらガーゼを当て、包帯をして必ず医療機関で診察を受ける。

### イ 皮下血腫

たんこぶ自体は気にしなくてよい。冷やして気持ちが悪ければそうしてもかまわない。たんこぶといった外見ではなく、頭蓋内損傷に伴う徴候（特に意識障害）に注意する。

## ウ 脳しんとう

外力が脳をゆさぶり、短時間意識障害があるが6時間以内に回復する、一時的な脳の障害。医療機関で診察を受ける。

## エ 頭蓋骨骨折

### (ア) 陥没骨折

バットや固いボールなどが当たり、小さい面積に力が加わった場合に起きやすく、脳挫傷を伴う危険性があり、直ちに手術が必要な場合がある。

### (イ) 線状骨折

転倒、衝突などで比較的広い面積に力が加わった場合に起こる。この結果、脳硬膜外血腫を起こすと危険。この場合、時間の経過とともに呼吸・心拍・血圧などに変化が生じる。特に意識障害に注意する。

### (ウ) 頭蓋底骨折

前・後頭部を強打したり、尾部強打した介達力で亀裂骨折（線状骨折）を起こす。

耳・鼻から出血や髄液のもれに対しては滅菌ガーゼで吸収するにとどめ、止血をしてはいけない。

## オ 頭蓋内出血

### (ア) 硬膜外血腫

硬膜上にある硬膜動脈が切れた結果、硬膜と頭蓋骨の間に血腫ができたもの。医療機関で診察を受ける。

### (イ) 硬膜下血腫

脳の表面の血管が脳挫傷の発生時に切れ、硬膜と脳表面との間に血腫ができたもので、ほとんどの場合、脳挫傷を併発しているため、最初から意識障害があることが多い。医療機関で診察を受ける。

## カ 脳挫傷

外力が脳組織に変化をもたらしたものを言う。外傷性てんかんの形で後遺症が出たり、脳浮腫を発生し死亡する場合もある。予後はよくない。頭部損傷はまず意識障害に留意し、悪化の徴候（嘔吐・けいれん・頭痛など）を見落とさず、医療機関で診察を受ける。

## (5) 耳・鼻・眼・歯の傷害

### ア 耳

#### (ア) 耳出血

耳の中は一切触らず、出血を吸収するにとどめ、耳鼻科の受診を指示する。転倒、衝突等、頭部損傷に伴う場合は直ちに脳外科へ運ぶよう手配する。

#### (イ) 耳管内異物

虫の場合は、灯火等で排出を試みる。うまく出ない場合は掃除機で吸い出す方法もある。ただし、掃除機の吸引力は強力なので、1～2秒にとどめ、出たかどうか観察する。出た後、傷がないかどうか耳鼻科で受診する。

### イ 鼻

#### (ア) 鼻出血

通常は、鼻翼を押さえつけるだけで止血可能。鼻のつけねを冷湿布すればなお効果的である。それでも止まらない時は、滅菌ガーゼを鼻につめて耳鼻科で対応してもらう。

#### (イ) 鼻骨骨折

鼻骨の変形や骨折が疑われる場合は止血のみに気をとられることなく、必ず受診する。鼻骨骨折を見逃すと、変形により顔貌上の問題の他、鼻のとおりが悪くなる影響が残る。

### ウ 眼

#### (ア) 眼の周りのけが

直接圧迫で止血をした上で、厚くガーゼを当て、強めに包帯を巻いて眼科もしくは外科で診察を受ける。

#### (イ) 眼球自体のけが

ボールが当たったり、転倒の際や、走り高とびの際、自分の膝で眼球を強打したりすることがよくある。この際、眼窩底骨折を起こすこともあるが、そうすると眼球の上下方向への運動が障害され、上下方向の複視を訴える。激しい眼痛、視力異常、眼部の出血眼などがある場合は、厚めにガーゼを当てゆるめに包帯を巻き、眼科を受診する。

#### (ウ) 眼の異物

小さな物でも大変痛むので、異物が確認できれば、ぬらした綿棒で取る。

取れない場合や眼に刺さっている場合は、厚めにガーゼを当て、紙コップなどを切って目にかぶせ、包帯の圧力が異物に加わらないようし、必ず両眼を包帯し、すぐに眼科を受診する。

## エ 歯

### (ア) 歯の欠損

歯の欠損事故は大変多く発生している。一番欠きやすいのは上顎中切歯だというデータがある。

次は門歯となっている。折った場合、最も大切なことは再植するための処置である。理想的には即座に再植すること。口腔外にある時間が問題になる。

しかし、クラブにおいてそれは無理があるので、次善の策として冷たい牛乳にひたし、歯科医のもとへ持っていく。歯根膜細胞は牛乳の中で6時間以上細胞分裂の活動を維持できる。野外活動中などで牛乳が手に入らない時は、舌下に入れ飲み込まぬよう注意して保管する。

## (6) 腹部

### ア 打撲

小児の腹部はやわらかいため、外力により内臓損傷を起こす可能性が高い。内臓損傷を現場で確認するのは大変難しい。腹部を打った子がショック症状をおこした場合は、腹部内出血を疑うとか、腹部をよく観察して出血斑が無いかを調べるなどをする。

### イ 腹痛

便意に伴う腹痛か、病的腹痛か自分でもよく分かりかねる子どもが多い。便意以外の腹痛だと見当をつけた場合は、余計なことをせず、受診させる方が良い。不用意に温めたり、鎮痛剤を与えたりしてはいけない。

ただし、①突然おこる激しい腹痛

②顔面が蒼白で冷汗をかき、ショック症状を呈している

③意識がおかしい

④腹壁が固く張っている

⑤嘔吐がある

などの症状がある場合は、急性腹症の疑いがある。

主な急性腹症は以下のとおり。

- |         |       |         |           |       |
|---------|-------|---------|-----------|-------|
| ・急性虫垂炎  | ・急性膵炎 | ・急性胆のう炎 | ・穿孔性消化性潰瘍 |       |
| ・胃腸管の閉塞 | ・尿路結石 | ・胆道結石   | ・胃腸管からの出血 | ・腹部打撲 |

このような場合は、

①着衣をゆるめ、本人が一番楽だという体位にする

②安静にして保温する（体全体を温めることで、腹部だけ温めることではない）

③嘔吐したら、嘔吐物は保存しておく

④飲食物は与えない

## (7) 骨・関節・筋肉の傷害

これらの部位に共通する症状は内出血である。そして、その結果からくる腫脹があるが、それらを最小限にすることが大切である。そのための基本手当がR I C E（ライス）である。

R（Rest：安静）	直ちに運動をやめ、患部を動かさない。
I（Ice：冷却）	氷水で10～30分位冷やす。
C（Compression：圧迫）	軽く圧迫包帯をして腫れの進行を押える。
E（Elevation：挙上）	患部を心臓よりも高い位置に上げる。

これらの手当は受傷後、早いほど効果を生じる。

## ア 骨折

骨折の有無の判断は、次の徴候によって行う。

・痛み	・腫れ	・隣接した関節が動かせない	・変形	・異常可動性	・骨折音
・機能障害	・骨折端に触れる場合もある	・ショック	・外出血（複雑骨折の場合）		

以上の徴候を健側と比較すると大変わかりやすい。

また、骨軸に対して骨端部から軽く叩いて、患部にひびくかどうかの検査も有効である。

骨折時には、部位によってはかなり出血を伴うのでショック防止も重要。R I C Eの処置をした後、副木（そえぎ）固定する。副木としては、段ボール、新聞紙、週刊誌なども使える。

固定範囲は骨折部位の上下の関節固定と覚えれば便利である。

## イ 捻挫

捻挫の手当でする多くの間違いは、

- ①すぐに安静をとらず、運動を続け、痛みが我慢できなくなってから治療する
- ②冷やし方が中途半端（コールドスプレーを一吹きするだけとか、冷やす時間が短い）である
- ③長時間冷やし続けている
- ④リハビリをきちんとやらない

といった点があげられる。最も多い足首の捻挫の重症度の判定は普通、次の方法で行う。

I 度 (軽 症)	①外側靱帯上に圧痛がある。 ②背屈と底屈の制限はなく、痛みもない。 ③踵部に異常な内転力を加えると多少の痛みが起こる。
II 度 (中等症)	①普通の動きですら非常に痛む、機能制限がかなり大きい。 ②足関節の足がびらん性に腫脹する。
III 度 (重 症)	①直後より顕著な機能障害 ②腫れはびらん性で程度が強い。 ③足関節などの方向に動かしても、強い痛みが起こる。 ④異常可動性が証明される。

また、骨折か捻挫か（足）の見極めは、次のようにして行う。

骨 折	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くるぶしより上が痛い</li> <li>・内、外どちらに動かしても痛い。</li> <li>・踵を叩くと、くるぶし上部に痛みがひびく。</li> </ul>
捻 挫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くるぶしの下が痛む。</li> <li>・ひねったほうに動かすと痛い、反対に動かしても痛くない。</li> <li>・疼痛がない。（ズキズキとうずく痛み）</li> </ul>

捻挫と確認できれば、

①安静にする

②圧迫包帯した足をバケツの氷水の中に入れ、30分程度冷やす

③患部を挙上し、氷などで冷やし、医療機関へ連れて行く

初期に十分冷やすこと、腫れが止まったら温めて軽いリハビリを始めることなど、正しい知識を伝えておく必要がある。

ひどい捻挫は、ギブスで固定する。捻挫だといって軽視しない。

#### ウ 脱臼

脱臼は、骨と骨が本来の生理的な位置関係からずれた状態なので、外見上から判断しやすい。

整復は、素人が絶対に行わず、患部の動揺を防ぐ固定をして、整形外科へ連れて行く。

#### エ 突き指

指の骨軸に直角に強い外力が働いておこる障害の総称で、実態は指の捻挫、脱臼、骨折などが起こっている。

絶対にやってはいけないことは、指を引っ張ること。悪化させこそすれ、良くはならない。R I C Eの手当を行い、固定する。

#### 【テーピングについて】

テーピングの目的は、

①過重な負担がかかっても、耐えられるように事故防止

②傷後、弱くなっている筋肉・関節を補強する

といった点にある。そのために大事なことは、

①人体の解剖学的構造をよく理解する

②正しい巻き方をする

などである。

#### 【ツメの間の異物】

ツメの下に刺さるととても痛い。取ろうとしてもツメが邪魔で抜けない時は、ニッパーなどでツメをV字形にカットし、とげの頭を出す。緊急でない場合は、抜いた後は患部を押して血をしぼり出し、汚れを除去し、消毒薬をつけておく方法もあるが、医師の治療が必要である。

## (8) やけど

やけどの危険性は、感染とショックである。それを防ぐには上手に冷やすことにつぎる、  
 と言ってよい。

そのためには、

- ①流水で
- ②患部を傷付けずに
- ③痛みの取れる水温で
- ④痛みを感じなくなるまで冷やす

ことを基本とする。

あわてて強い水圧で患部を冷やし、水疱を破ったり、不用意に衣服を脱がせ、皮膚を損傷するケースが大変多い。(不用意に衣服を脱がさず、必要な場合にはハサミで切り取る)

軽 症	痛みがなくなるまで冷やす。
中等症	十分冷やし（最低 30 分）滅菌ガーゼを厚めにあて、やさしく包帯をして病院へ。
重 症	<p>十分冷やししながら救急車を直ちに要請する。</p> <p>ショック症状が少しでも出現したら、冷やすのは止め、ショックの手当と保温と体位管理に努める。</p> <p>のどの渇きを訴える時はスポーツドリンク、もしくは水 1 匁に塩茶さじ 1、重曹茶さじ半杯をとかした物を少しずつ飲ませる。</p> <p>めまい、頭痛、吐き気を感じて失神する「熱疲労」は、発汗で体温調整ができなくなる。</p>

## (9) 異物の除去（食物などの異物が口に詰まった場合の処置）

異物（食物、吐物、血液など）が口の中や喉などに詰まっている状態（気道閉塞（へいそく））が強く疑われる場合における異物の除去の方法

## ア 傷病者に反応（意識）がある場合の異物の除去の方法

背部こう打法 (はいぶこうだほう)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ひざまずいて、傷病者を自分の方に汲けて側臥位（そくがい）にする。</li> <li>・ 手の平（手の付け根に近い部分）で肩甲骨の間を何度か力強く連続してたたく。</li> <li>・ 体位は側臥位のほかに座位や立位による方法もある。痛みがなくなるまで冷やす。</li> </ul>
ハイムリック法 (上腹部圧迫法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 腕を後ろから抱えるように回す。</li> <li>・ 片手で握りこぶしを作り、傷病者のみぞおちのやや下方に当てる。</li> <li>・ その上を一方の手で握り、すばやく手前上方に向かって圧迫するように押し上げる。(意識がない場合は行ってはならない)</li> </ul>

なお、児童が咳をすることが可能であれば、咳をできるだけ続けさせる（咳は異物の除去に最も効果的である。）

## イ 傷病者に反応（意識）がない場合の異物の除去の方法

（意識がある場合でも、応急手当を行っている途中で意識がなくなった場合には、意識がない場合の方法による。）

意識がない場合には、直ちに助けを呼び 119 番通報するとともに、心肺蘇生法を実施する。

- ・気道の確保を行い、次に直ちに人工呼吸を 2 回行う（省略可）。
- ・人工呼吸を行う際に、口の中にもし異物が見えるならば、異物を取り除く。
- ・その後は、心臓マッサージ 30 回と人工呼吸を 2 回（省略可）を繰り返す。もし、人工呼吸を行う際に、口の中に異物が見えたならば、異物を取り除き、再び気道の確保をやり直し心臓マッサージと人工呼吸を繰り返す。

もし、人工呼吸を行った際に、口の中に異物が見えないならば、異物の取り除きに時間を費やすことなく、心臓マッサージ 30 回と人工呼吸 2 回を繰り返す。

## （10）熱中症

高温多湿の場所で、激しい運動をした場合に起こることが多い。

痛みを伴う筋肉の収縮が表れる「熱けいれん」と発汗で水分が失われるため脱力感、めまい、頭痛、吐き気を感じて失神する「熱疲労」、発汗で体温調整できなくなり、頭痛、めまい、失神、精神混乱をきたす「熱射病」の 3 つに分けられる。炎天下で熱射病がおきた場合は日射病と呼ばれる。

- （手 当）
- ①自覚症状を感じたら無理をせず、涼しい日陰か冷房のある部屋で休ませ、冷たい水を飲ませれば回復する。
  - ②意識があれば体をぬらして体温を下げるようにする。
  - ③意識がなければ呼吸状態に十分注意し、気道閉塞をおこさない体位で体温を下げるようにする。この際は、直腸温をはかり、38 度まで下げることにとどめる。下げすぎるとショックを起こす危険性がある。

## （11）感染症胃腸炎（ノロウイルス）

ノロウイルスは、あらゆる年齢の人に急性胃腸炎を起こし、ウイルス量が 100 個以下の極少量でも感染するほど、感染力の強いウイルスで、一年を通じて発生するが、特に冬場（主に 11 月～2 月）に流行する。

ノロウイルスに感染すると、概ね 1～2 日の潜伏期間の後、下痢、嘔吐、発熱などの症状が見られる。通常発症から 1～2 日で回復しますが、抵抗力が弱い乳幼児や高齢者では、重症化したり、吐物を気管に詰まらせたりすることもあるので注意が必要。

## ア 感染ルート

ノロウイルスは、口から入ることで感染する。感染には大きく分けて次の 3 つのルートがあり、特に、感染症ルートによる二次感染が多く発生しています。

- ・感染者の嘔吐物等処理する際に、手指にノロウイルスが付いて、手指を介して口に入り感染する場合、あるいは乾燥して浮遊したノロウイルスを吸い込んで感染する場合



- ・感染者が調理時に食べ物にノロウイルスを付け、その食べ物を食べて別の人が感染する場合
- ・ノロウイルスを蓄積した二枚貝などを、生又は十分過熱せずに食べて感染する場合

## イ 予防対策

### 【加 熱】

85℃で1分以上の加熱をする。

### 【手洗い】

調理の前や、トイレの後、汚物処理の後などには、石けんと流水で十分によく洗う。

清潔なタオル又はペーパータオルで拭く。タオルの共用は止める。

### 【塩素系漂白剤による消毒】

ノロウイルスの消毒には、必ず塩素系漂白剤（成分：次亜塩素酸ナトリウム）を使用する。（アルコールや逆性石けんは効果がない）作業には使い捨て手袋等を用い、使用後は密閉して処分する。

- ・トイレのドアノブなどや、調理器具の消毒は、濃度 0.02%（200ppm）の液を使用して、浸すように拭き取る。
- ・嘔吐物等で汚れた床などや、嘔吐物等自体の消毒は、さらに高濃度の 0.1%（1000ppm）の液を使用して、浸すように拭き取る。
- ・色落ちする衣類など塩素系漂白剤が使用できない物の場合は、良く下洗い後に、熱湯やスチームアイロンなどの蒸気（85℃以上で1分間以上）で消毒する。下洗いをした洗面所などにはノロウイルスが残っているので、きちんと消毒する。

### 【感染を防ぐ】

既に感染した人が食事の調理などをすると、食べ物にノロウイルスを付け、それを食べた人が感染する可能性があるので注意が必要である。

日頃からの健康管理を行うとともに、下痢や嘔吐等の症状がある場合は、直接食品を取り扱う作業は控える。

## (12) 光化学スモッグ

光化学スモッグとは、自動車の排気ガスや工場の煙などが、太陽光の紫外線と結びついて発生するスモッグのことで、4月から10月にかけて、日射（紫外線）が強く、気温が高く、風が弱いという気象条件が重なった日に多く発生する。

光化学スモッグによる健康被害を防止するため、注意喚起情報が発表されることがありますので、「市ウェブサイト」や「防災メールマガジン」によるメール配信、次の広報手段により、光化学スモッグの有無などについて情報を得ること。

- ・市公式フェイスブック
- ・防災ウェブサイト
- ・防災フェイスブック
- ・防災ツイッター
- ・防災行政無線

### 健康被害の症状は

- ア 目の症状（目がチカチカする、目が痛い、涙が出る等）
- イ 呼吸器の症状（喉が痛い、せきが出る、息苦しい等）
- ウ その他の症状（吐き気、頭痛等）

これらの症状の大部分は比較的軽症の一過性のものであり、被害の発生場所は屋外が多い。  
光化学スモッグが発生したときは

光化学スモッグの健康被害者は、子どもたちに多いのが特徴である。子どもたちの健康被害を未然に防ぐため、次のことを実行すること。

ア 屋外での運動をすべて中止し、室内に避難。水で洗顔、うがいをする。

また、屋内ではなるべく窓を閉める。

イ 手足のしびれ、呼吸困難、失神等の症状が発生した場合は、医師の手当を受ける。

ウ 眼疾患、呼吸器疾患、甲状腺機能亢進症、アレルギー体質等の子供は、特に健康被害を受けやすいので言われているので、異常を感じた場合は、医師の手当を受ける。

「注意報」「警報等」発令時の対応

ア 注意報：運動（身体活動）を行う場合は、特に児童の状態を十分把握し、過激な運動を避け慎重に行う。

イ 警報・重大緊急時警報：屋外・屋内を問わず、一切の過激な運動（身体活動）を中止する。

被害についての報告内容

実際に被害者が発生した場合は、次のような内容について記載しておく。

①被害発生の時間

②被害発生の場所

③被害を受けた人（氏名・学年・性別など）

④被害発生の状況及び症状（目・のどの刺激、めまい、しびれ、呼吸困難など）

⑤処置の状況

記載した内容は、こども政策課へ届け出る。

### （13）微小粒子状物質（PM2.5）

微小粒子状物質（以下「PM2.5」という。）とは、大気中に浮遊している  $2.5\mu\text{m}$  以下の非常に小さな粒子（髪の毛の太さの  $1/30$  程度）のことで、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸系への影響に加え、循環器系への影響が心配される。

PM2.5 の注意喚起の判断基準は、国が定めた「注意喚起のための暫定的な指針値」である 1 日平均値  $70\mu\text{g}/\text{m}^3$  を基本とし、判断基準値を超過した場合は、各児童クラブへ注意喚起実施を連絡する。

※  $1\mu\text{m} = 1\text{mm}$  の千分の 1

健康被害の症状は

ア アレルギー疾患（アレルギー性鼻炎、その他のアレルギー疾患）

イ 呼吸器疾患（ぜんそく発作）

ウ その他の症状（のどの違和感、せき症状、眼症状等）

PM2.5 注意喚起実施への対応

ア 不要不急の外出は自粛する。

イ 外出時にはマスクを着用する。

ウ 屋外での激しい運動を自粛する。

被害についての報告内容

実際に被害者が発生した場合は、次のような内容について記載しておく。

- ①被害発生の時間
- ②被害発生場所
- ③被害を受けた人（氏名・学年・性別など）
- ④被害発生の状況及び症状（目・のどの刺激、めまい、しびれ、呼吸困難など）
- ⑤処置の状況

記載した内容は、こども政策課へ届け出る。

#### （14）常備薬

救急処置を適切に行うことが目的であり、豊富に揃える必要はない。

ア 殺菌消毒薬

アクリノール（リバノール）、塩化ベンゼルコニウム（オスバン）、グルコン酸クロルヘキシジン（ヒビデン）、生理食塩水など

イ 虫さされ、かゆみ止め薬

抗ヒスタミン剤など

ウ パップ剤（湿布薬）

エ 冷却シート

オ 衛生材料

ガーゼ、包帯、脱脂綿、絆創膏、綿棒、眼帯、三角巾

## Ⅵ 避難訓練の実施

不審者の侵入や地震、火災などの緊急災害時はパニック状態となり、マニュアルどおりにはならない事を想定し、児童・支援員が無事避難できるよう体で覚えるように訓練を実施すること。

### 1 不審者が侵入したとき

想定：開所中の児童クラブに不審者が侵入する。	
<p>■不審者が児童クラブ出入口付近に近づく。</p> <p>■支援員が不審者に声をかけ来所の目的を尋ねる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何かご用ですか?」「ご用がなければ児童クラブに入れません。」</li> </ul> <p>■不審者が指示に従わない場合、退去通告を丁寧に繰り返す。</p> <p>■不審者が退去命令に従わないで、暴言や暴力行為に及び制止を振り切り児童クラブへ侵入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常警報ブザーにより警備会社に危険を知らせる。</li> <li>・侵入した反対の入口から子どもたちを安全な場所（学校等）に避難させる。</li> </ul> <p>※『おかしもち』を守って落ち着いて行動する。</p> <p>「お」…おさない 「か」…かけない 「し」…しゃべらない 「も」…もどらない 「ち」…ちかつかない</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不審者が児童クラブ外に退去する。</li> <li>・不審者の行動を注視し、関係機関に連絡する。</li> </ul>	
連絡担当	救護担当
<p>■110番に通報 （警察） 110番、警察です。どうしましたか？ 「〇〇小児童クラブです。男（女）が侵入してきました。子どもが危険にさらされています。すぐに来てください。」 （警察） 場所を教えてください。 「場所は、郡山市〇〇町〇丁目〇番〇号 〇〇小児童クラブです。」 （警察） 何か近くに目標となる建物がありますか？ 「〇〇小学校の敷地内です。」</p>	<p>■児童の確認 「名前を呼ぶので、返事してください。」 「全員確認しました。」 ⇒連絡担当へ報告</p> <p>■ケガ人等の確認 「気分の悪い子や逃げるときケガをした人はいますか？」 「気分が悪くなったら支援員に教えてください。」 「みんなは、その場で座って待ってください。」 ⇒ケガ人がいないか確認し、連絡担当へ報告</p>

連絡担当	救護担当
<p>(警察) あなたのお名前と連絡先を教えてください。</p> <p>「私は、〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。 電話は、〇〇〇－〇〇〇〇です。」</p> <p>(警察) 警察官を現場に向かわせます。</p> <p>■学校へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。児童クラブに不審者が侵入しました。児童は、全員学校の〇〇に避難しています。警察署には連絡済みです。」</p> <p>(学校)</p> <p>児童クラブに不審者が侵入。了解しました。放送により校内に残っている児童に周知します。職員の応援は必要ですか。</p> <p>「お願いします。」</p> <p>■こども政策課へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。児童クラブに不審者が侵入しました。児童、支援員にケガ人はいません。警察署と学校には連絡済みです。」</p> <p>(こども政策課)</p> <p>「〇〇小児童クラブに不審者が侵入。了解しました。職員が児童クラブへ向かいます。」</p> <p>■警察到着後、避難状況を報告</p> <p>「児童と支援員〇〇人中〇〇人、全員避難して無事です。」</p>	
<p>■保護者へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。」</p> <p>「〇時〇分頃、児童クラブに不審者が侵入しました。」</p> <p>「子どもたちと支援員は全員無事です。」</p> <p>「子どもたちの安全確保のため、早めのお迎えをお願いします。」</p> <p>「お迎えは学校の〇〇室に直接お願いします。」</p>	

## 2 地震・火災が発生したとき

想定：震度4 揺れ30秒程度		
発見者	「地震だ。」 ※支援員はあわてず大声で周囲に知らせる。	
連絡担当	初期消火担当	避難誘導、救護担当
<p>「訓練、訓練。地震発生。落ち着いて、机の下にもぐりなさい。安全確認がされるまで動かないように。」</p> <p>「〇〇支援員（避難誘導担当）は子どもたちを机の下に避難誘導してください。」</p> <p>「〇〇支援員（初期消火担当）は電気のブレーカーを落としてください。」</p> <p>「避難経路を確保します」 非常口の扉（戸）を開けます。</p>	<p>電気のブレーカーを落とす、又はコンセントを全て抜きます。</p>	<p>「落ち着いて、机の下にもぐりなさい。安全確認がされるまで動かないように。」</p>
■支援員も、子どもたちと一緒に、頭を保護し、しゃがんで揺れが治まるのを待ちます。		
<p>揺れが治まったのを確認して、</p> <p>「揺れが治まりました。」</p> <p>「〇〇支援員（避難誘導担当）は落下物や窓等の破損がないか確認してください。」</p> <p>「〇〇支援員（避難誘導担当）は子どもたちを机の下から出してその場に待機。ケガ人がいないか確認してください。」</p> <p>「〇〇支援員（初期消火担当）は火の元を確認してください。」</p>	<p>暖房設備の火の元を確認。 →火の手が上がっている。</p>	<p>落下物や窓等の破損がないか確認します。 「落下物等はありません。」⇒連絡担当へ報告</p> <p>「落ち着いて、頭に気を付けて机の下から出て、その場にしゃがみなさい。」 子どもたちにケガがないか確認します。 「ケガ人なし。」⇒連絡担当へ報告</p>

■暖房設備より火災が発生したと想定		
発見者	「火事だ。」 ※火災を発見した支援員は火元を確認し、あわてず大声で周囲に知らせる。	
連絡担当	初期消火担当	避難誘導、救護担当
<p>「訓練、訓練。火災が発生。」</p> <p>「〇〇支援員（避難誘導担当）の指示に従い、非常口から校庭に避難してください。」</p> <p>〇〇支援員（避難誘導担当）は、非常用持ち出し袋・名簿等を持ってみんなを誘導してください。」</p> <p>「〇〇支援員（初期消火担当）は、初期消火に当たってください。」</p> <p>「私は、関係機関に連絡します。」</p> <p>非常通報ボタンを押します。</p> <p>避難する際は、逃げ遅れた児童がいらないか声をかけながら避難します。</p> <p>「誰かいませんか。」</p> <p>■消防署（１１９）へ通報（消防）</p> <p>１１９番、消防です。火事ですか？救急ですか？</p> <p>「火事です。」</p> <p>（消防）</p> <p>場所を教えてください。</p> <p>「場所は、郡山市〇〇町〇丁目〇番〇号 〇〇小児童クラブです。」</p>	<p>消火器を持ち、「消火します。」</p> <p>⇒「消火」</p> <p>【消火器の取扱い】</p> <p>①ピンを抜く</p> <p>②ノズルを火元に向ける</p> <p>③レバーを握る</p> <p>「消火できませんでした。」⇒連絡担当へ報告</p> <p>トイレ、和室などに逃げ遅れた児童がいらないことを確認します。</p> <p>初期消火担当は、避難する際火の延焼を防ぐため、避難経路の窓やドアを閉めて避難します。</p> <p>⇒避難誘導担当に合流</p>	<p>非常用持ち出し袋・名簿等を持って誘導します。</p> <p>「みんな、落ち着いて、ハンカチやタオルを持って、靴を持って非常口から校庭に避難します。」</p> <p>「『おかしもち』を守って落ち着いて行動しなさい。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>『おかしもち』</p> <p>「お」…おさない</p> <p>「か」…かけない</p> <p>「し」…しゃべらない</p> <p>「も」…もどらない</p> <p>「ち」…ちがづかない</p> </div>

連絡担当	初期消火担当	避難誘導、救護担当
<p>(消防) 何が燃えているかわかりますか？ 「暖房設備が燃えています。」</p> <p>(消防) 何か近くに目標となる建物はありますか？ 「〇〇小学校の敷地内です。」</p> <p>(消防) あなたのお名前と連絡先を教えてください。 「私は、〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。電話は、〇〇-〇〇〇〇です。」</p> <p>(消防署) 消防職員を現場に向かわせます。</p> <p>■学校へ連絡 「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。児童クラブで火災が発生しました。児童は、全員校庭に避難しています。消防署には連絡済みです。」</p> <p>(学校) 児童クラブが火事。了解しました。放送により校内に残っている児童に周知します。職員の応援は必要ですか。 「お願いします。」</p>		<p>児童全員の校庭への避難が終了した後</p> <p>児童を学年、男女別に並ばせ座させます。 当日の出席簿で確認を行います。 「名前を呼ぶので、返事してください。」 「全員確認しました。」 ⇒連絡担当へ報告</p> <p>「気分の悪い子や逃げるときケガをした人はいますか？」 「気分が悪くなったら支援員に教えてください。」 「みんなは、その場で座って待ってください。」 ⇒ケガ人がいないか確認し、連絡担当へ報告</p>



連絡担当	初期消火担当	避難誘導、救護担当
<p>■こども政策課へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。児童クラブで火災が発生しました。児童、支援員にケガ人はいません。消防署と学校には連絡済みです。」</p> <p>（こども政策課）</p> <p>〇〇小児童クラブで火災。了解しました。職員が児童クラブへ向かいます。</p> <p>■消防到着後、避難状況を報告</p> <p>「児童と支援員〇〇人中〇〇人、全員避難して無事です。逃げ遅れた人はいません。」</p>		
<p>■保護者へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇〇〇です。」</p> <p>「〇時〇分頃、児童クラブで地震による火災が発生しました。」</p> <p>「子どもたちと支援員は全員無事です。火災は、鎮火しました。」</p> <p>「児童クラブの中には入れません。早めのお迎えをお願いします。」</p> <p>「お迎えは学校の〇〇（避難場所）に直接お願いします。」</p>		

### 3 水害・土砂災害が発生したとき

<p>想定：雨が降り続いたことで、近くにある河川が避難判断水位に到達し、警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」が発表される。</p> <p>※指定の避難場所が学校外の場合、避難訓練については学校敷地内で行けるところまでで実行してください。なお、実際に避難場所まで滞りなく行けるよう、学校外の避難経路についても、予め十分な確認を徹底しておいてください。</p>	
<p>予め、ラジオで気象情報や河川情報を確認</p> <p>防災行政無線のサイレンが鳴り、警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」が発令。</p>	
連絡担当	救護担当
<p>「訓練、訓練。ただ今、避難準備情報が発表されました。）安全確認がされるまで部屋のなかにいるように。」</p> <p>■学校へ確認の連絡</p> <p>「避難準備・高齢者等避難開始が発表されました。指定避難場所（学校等）へ避難を開始したいと思いますが、学校の現時点の対応はいかがでしょうか。」</p> <p>（学校）</p> <p>「学校でも児童を下校させずに、指定の避難場所へ避難させる予定です。」</p> <p>「避難経路を確保します」</p> <p>非常口の扉（戸）を開けます。</p> <p>「〇〇支援員（避難誘導担当）の指示に従い、非常口から避難場所（学校等）に避難してください。_____〇〇支援員（避難誘導担当）は、非常用持ち出し袋・名簿等を持ってみんなを誘導してください。」</p>	<p>「落ち着いて、部屋の中にいてください。安全確認がされるまで動かないように。」</p> <p>■児童の確認</p> <p>「名前を呼ぶので、返事してください。」</p> <p>「全員確認しました。」</p> <p>⇒連絡担当へ報告</p> <p>非常用持ち出し袋・名簿等を持って誘導します。</p> <p>「みんな、落ち着いて、ハンカチやタオルを持って、靴を持って非常口から避難場所（学校等）まで避難しましょう。」</p> <p>「『おかしもち』を守って落ち着いて行動してください。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>『おかしもち』</p> <p>「お」…おさない</p> <p>「か」…かけない</p> <p>「し」…しゃべらない</p> <p>「も」…もどらない</p> <p>「ち」…ちかづかない</p> </div>

連絡担当	救護担当
<p>○避難する際は、逃げ遅れた児童がいないか声をかけながら避難します。</p> <p>「誰かいませんか。」</p> <p>■学校へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。児童は、全員〇〇（避難場所）に避難しています。」 （学校）</p> <p>了解しました。放送により校内に残っている児童に周知します。職員の応援は必要ですか。</p> <p>「お願いします。」</p> <p>■こども政策課へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員〇〇です。避難準備・高齢者等避難開始が発表されましたので、学校に確認の上、全員避難場所の〇〇に避難しています。児童、支援員にケガ人はいません。」 （こども政策課）</p> <p>了解しました。職員が〇〇（避難場所）へ向かいます。</p> <p>■保護者へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。」</p> <p>「〇時〇分頃、避難準備・高齢者等避難開始が発表されましたので、学校に確認の上、避難場所の〇〇に避難待機しています。」</p> <p>「子どもたちと支援員は全員無事です。」</p>	<p>■ケガ人等の確認</p> <p>「気分の悪い子や逃げるときケガをした人はいますか？」</p> <p>「気分が悪くなったら支援員に教えてください。」</p> <p>「みんなは、その場で座って待ってください。」</p> <p>⇒ケガ人がいないか確認し、連絡担当へ報告</p>
河川の水位が安定し、避難準備・高齢者等避難開始が解除される。	
<p>■学校、こども政策課へ連絡</p> <p>「避難準備・高齢者等避難開始が解除されましたので、保護者へお迎えに来てもらうよう連絡します。」</p> <p>■保護者へ連絡</p> <p>「〇〇小児童クラブ支援員の〇〇です。避難準備・高齢者等避難開始が解除されましたので、子どもたちの安全確保のため、早めのお迎えをお願いします。」</p> <p>「お迎えは避難場所の〇〇に直接お願いします。」</p>	

郡山市放課後児童クラブ 安全管理マニュアル

平成27年5月作成

(令和4年4月改訂)

郡山市こども部こども政策課

〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL：024-924-3801 / FAX：024-924-3802

E-mail：kodomomirai@city.koriyama.lg.jp

郡山市ウェブサイト：<http://www.city.koriyama.fukushima.jp>